

# ちえふくろう



〒108-0014 東京都港区芝 5-27-5

NPO法人 人生まるごと支援

TEL 03-3453-6210

FAX 03-3453-6208

## 【最期まで住み慣れた自宅で④】

ちえふくろう9月号に書かせていただいた95歳、おひとりさま女性Hさんの『大曲の花火大会が見たい』の続きです。

8月31日(土)に至るまで、日本列島は台風の影響で、飛行機も各地で欠航になり、花火大会も当日に開催が決定されました。

当日朝、Hさんの状態は、私から見て秋田は難しいかな、と思いましたが、昨夜も『花火、楽しみだわ』と言われていたので、私は『天気も良くなったのでちょっとドライブに行きましようか?』と尋ねると『うん』と頷かれました。『調子が悪くなかったらすぐに帰ってきましようね』と言うと『うん』とにっこりされました。

NPOの支援員と看護師さんと一緒に、泊りの着替え、車いす、酸素ポンペを車に乗せて、ちょっと近所をドライブする雰囲気を出発しました。

Hさんは、がんの症状が増え、食事は減り、1日の9割をベッドで過ごし、ほとんど目をつむられています。が、車が走り出すと、目をぱっと開き『気持ちいいわね』と景色を眺められていました。

羽田空港に着くとHさんは『本当に行けるの?』と嬉しそうにされていました。

6月にも酸素ポンペを機内に持ち込んでいたので、空港での手続きはとてもスムーズです。座席はトイレから近い席を予約してあったので、安心な空の旅でした。

しかしこれまでは、飛行機に乗られると到着するまでずっと窓から景色を見ているHさんですが、今回はすぐに目をつむられていました。初めてのことでした。

秋田空港に着き、花火会場に向かう途中、大きな虹が見えました。それもダブルです。私は初めてのダブルレインボーに感動。Hさんも『初めてだわ!!』と、とっても嬉しそうに窓から空を眺めていました。

当初の情報では花火会場まで渋滞して数時間かかるとありましたが、台風のおかげ(不謹慎ですが)で見学者が激減したようで道路が空いてスムーズに走れました。

花火が始まると、これまた見たことのない大きさの花火と聞いたことのないような音(車が揺れました)にHさんも『わー』と声をあげられました。

2時間近く花火を満喫しホテルにチェックインすると、替えの酸素ポンペと在宅酸素が部屋に届けられていました。看護師さんがHさんと同じ部屋で泊ってくれたので、私も安心でした。

翌朝、空港の途中でご当地ソフトクリーム(2日間で食事はこれだけ)を美味しくそうに召し上げられ、HさんはVサイン。

帰りの飛行機で『今度は、小さい頃に見た、星を見に行きたい』とHさん。

今、私は八ヶ岳、野辺山辺りの天体観測を計画しています。まだまだ旅は続きそうです。  
三国浩晃